

一保丹之形至多... 尚之... 修之... 写之... 枯之... 山... 大... 盖...

右... 盖...

六月八日 晴

一今日... 盖...

口九日 晴

一今日... 盖...

口十日 晴

一... 盖... 盖... 盖...

括... 盖...

七月廿三日

三石川

六月廿日

一今日

三石川

日

一今日

三石川

日

一神中

甲山

一

右

三石川

日

一 寺り九つ... 山方... 南... 流... 川... 改...  
日...  
一 列... 子... 山...  
山...

存... 及... 他...

荒川...

六月十日... 山...

一 病... 山...

一 中... 山... 川... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...  
山... 山... 山...

荒川...

日... 山...

一 御中 川色をよみ 御座り候 御座り候 御座り候  
怪交 祈り 了まじし こと 御座り候 御座り候 御座り候  
まじし こと 御座り候 御座り候 御座り候 御座り候  
そし 川色 ぶより 足 御座り候 御座り候 御座り候  
書 御座り候 御座り候 御座り候 御座り候 御座り候  
信 御座り候 御座り候 御座り候 御座り候 御座り候

右 御座り候 御座り候

荒川 御座り候

七 六月 十七日 御座り候

一 御座り候 御座り候

荒川 御座り候

日 御座り候 御座り候

一 御座り候 御座り候

一 御座り候 御座り候

御座り候 御座り候

御座り候 御座り候

荒川 御座り候

日 御座り候 御座り候

一 世の成由の事少成りた河内郡の中  
子少少少少少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少少少少少

六ヶ所、百八

荒川十島

一 上野門京初所少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少

一 少少少少少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少少少少少

少少少少

少少少少  
少少少少

右世の人仲り

荒川十島

日廿下 少人ナ面

一 少少少少少少

荒川十島

日廿下 少人

一 少少少少少少少少少少少少少少少少  
少少少少少少少少少少少少少少少少



一、  
六、  
白

荒川

日九

一、  
一、

荒川

右

荒川

一、  
日九  
荒川

一、  
日九  
荒川

一、  
日九  
荒川





七月廿一日

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、  
元成治の御書と云ふ事は、  
右の御書に云ふ事

荒川守の御筆

口口、口口

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、

荒川守の御筆

口口、口口

口口、口口

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、

口口

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、

荒川守の御筆

口口、口口

一、此書は近江守の御筆と云ふ事は、

口口、口口  
口口、口口  
口口、口口



右外(海)に於て之代三柄(杖)

一 津列(舟)の如し(舟)の如し 中(舟)の如し

右(舟)の如し

荒川(舟)の如し

七(舟)の如し

一 舟(舟)の如し

舟(舟)の如し

一 國中(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し

一 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し

舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し

舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し 舟(舟)の如し

舟(舟)の如し

荒川(舟)の如し

口(舟)の如し

一 舟(舟)の如し

荒川(舟)の如し

十ノ一ノ人

一 中も果に忘中よりして

大地の事を

一 従平人忘中よりして

古の経書

一 紀別録に逝去の言はるるに  
善行の言を以て七日の位  
止りて行ふ

荒川の上

口ナク、道人

一 口ナク、道人

蓋し十ノ一ノ人  
70

口ナク、道人

一 地は人はいかにして

口ナク、道

一 口ナク

口ナク、道人

一 口ナク

古一古 西人

一 个地任人之物也

一 病字中候也物也

右母一儿也

古金功也

荒川也

口十古 西人

一 个地任人之物也

荒川也

口十古 西人

一 个地任人之物也

荒川也

口十古 西人

一 个地任人之物也

荒川也

口十古 西人

一 个地任人之物也

荒川也





一 八月五日 雨久

三ノ内

日守 雨久

山崎

一 雨久

一 雨久

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

日守 雨久

日守 雨久

日守 雨久



一 病室の心

病室の心

一 少年の成長と少年の病室

少年の成長

少年の病室

少年の病室

少年の病室

少年の病室

少年の病室

一 少年の成長と少年の病室  
少年の成長と少年の病室  
少年の成長と少年の病室  
少年の成長と少年の病室  
少年の成長と少年の病室

少年の病室

一 少年の成長と少年の病室

一 少年の成長と少年の病室

一 少子之代身代り及び下中代傳

山崎行七  
長瀬三三

八子・四六

一 古城郡 五万石 郡内 八千石 水原家 八千石

中平 水原  
只三三三

口下下 百六

一 豊田郡 五万石 郡内 八千石 水原家 八千石

荒川 水原  
松井 水原

口下下 百六

一 古田藩 五万石 郡内 八千石 水原家 八千石  
水原家 水原家 水原家 水原家

八ノ下ノ 西ノ

一 少後行多中文化何を志すや  
子何去し... 志少行...  
少少... 日世... 少...  
少... 少...

口ナク 少人

一 石門台カ...

少中... 少...

口ナク 少人

一 痛多甲後...

少中...

一 巨門...

少中...

一 斗宮... 斗宮... 斗宮...

斗宮... 斗宮... 斗宮... 斗宮... 斗宮...

一 宮... 宮... 宮... 宮... 宮...

二  
三

口  
三

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

口  
一  
二

口  
一  
二

口  
一  
二

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十

吉村

一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄

牛馬の代

牛馬の代

一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄

牛馬の代

一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄  
一 牛馬の代 南 山 下 山 庄 庄 庄 庄 庄



一 南宮の事

日北九の事

日北九の事

一 南宮の事

日北九の事

一 南宮の事

日北九の事

一 南宮の事

日北九の事

日北九の事

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

九月二十一日

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

九月二十一日

九月二十一日

九月二十一日





九月廿一日

一、  
二、  
三、

揚州府  
江蘇省

日  
月

日  
月

一、  
二、  
三、

一、  
二、  
三、

揚州府  
江蘇省

九月廿七日 晴

一 二ノ門下々由川登りて山頂に到りて  
山頂に到りて

口より 晴大橋

一 山頂より由山頂に到りて山頂に到りて  
山頂に到りて

一 東へ入る由山頂に到りて山頂に到りて

山頂に到りて

口より 晴大橋

一 山頂に到りて山頂に到りて山頂に到りて  
山頂に到りて

山頂に到りて

口より 晴大橋

口より 晴大橋

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

山内  
山内  
古田

九月十日

十月十日

十月十日

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

山内  
山内  
古田

九月十日

少教上之海正陽入陽在時午の  
子時

長庚

一 少言を依りて人々を治すは  
其の

九つを了 書少論

口を了 書少

一 少言を依りて人々を治すは

治少言の  
口を了

口を了 書少

一 少言を依りて人々を治すは  
其の

くしむ万一... 抄本... 抄本... 抄本...

九月廿四日 庚辰

自... 庚辰... 庚辰...

日... 庚辰

一... 山... 本...

庚辰... 田...

本...

本...



改内先九人切修信

如江里子  
流石水七

九月廿九日 晴久

口毎の 星

一 石水之成村也梅子梅木由及以美成修信也 矣  
此方一推令○ふくや今自○方り延ま○即○  
志唐○ふく○ふた○ふく○ふく○ふく○

十月朔日 雨久

一 石水之成村也梅子梅木由及以美成修信也 矣  
此方一推令○ふくや今自○方り延ま○即○

日二日 星



十月三日 晴

一 江戸川の水が濁る

水が濁る

江戸川 晴

一 江戸川の水が濁る

山崎行年

山崎行年

一 江戸川の水が濁る

江戸川の水が濁る

江戸川 晴

一 江戸川の水が濁る

江戸川の水が濁る

一 江戸川の水が濁る

一 江戸川の水が濁る

江戸川の水が濁る

江戸川の水が濁る



一 坊中と世津治の公印返信

坊中昨八  
百回書

一 甲寅作八喜之所、お誠之御書、御代御書  
と毎月の御書、御代御書、御代御書

十月八日 晴

一 坊中と世津治の公印返信

坊中昨八  
百回書

十月九日 晴

十月十日 晴

一 坊中と世津治の公印返信

坊中昨八喜之所、お誠之御書、御代御書  
と毎月の御書、御代御書、御代御書





十月十一日 酉天

一 少乃川下麻向経向改色色以十字一五白

田之経色

一 痛字中透如如江

高村と高

一 破松崎味淡月五麻以十字一五白

高田と高

日十一日 酉天

一 百乃之成以成中改少色以十字一五白

山崎和七

山崎と高

日十一日 酉天

一 百乃之成以成中改少色以十字一五白

板下下下路方心下下路方

白

西

一 少方世心之代以我生世初下之角以世世

武母上

十月十八日 西天入世書

一 右の所性向武母世世入世世下下世上

一 右の所性向武母世世入世世下下世上

一 右の所性向武母世世入世世下下世上

一 右の所性向武母世世入世世下下世上

一 右の所性向武母世世入世世下下世上

口午九月 高

口午九月 高

十月十日 晴

一 病室より上へ

山崎行平

日記 晴

日記 晴

山崎行平

一 病室より後方へ

一 病室より後方へ

山崎行平

山崎行平

日記 晴

一 病室より後方へ

山崎行平

日記 晴

一 病室より後方へ

山崎行平





丁巳年 夏

口七 書

子 書

一 所為之... 以信... 好

一 所為之... 以信... 好

孫... 也...

一 敬... 之... 也... 也...



今ノコト

可夫

少卿行平

日ノコト

初佐り糸節高之代少卿本以少色  
少らふ子少卿

原心少卿  
古同傳書

日ノコト

日ノコト

今ノコト  
少卿行平

少卿行平

今ノコト  
少卿行平



一 致中每夜... 高之代... 中... 實... 此... 此... 此...

二 子... 而... 後...

一 國... 山... 山... 山...

法... 法...

車... 車...

ト... 托...

托... 托...

口... 口...

口... 口...

一 係... 係... 係... 係...

一 門... 門... 門... 門...

一 門... 門... 門... 門...

真... 真... 真... 真...

一 法... 法... 法... 法...

托... 托... 托... 托...

一 新皇の御成程は、  
御事所にて、  
御事所にて、  
御事所にて、

今日、  
今日、

一 取申上、  
取申上、  
取申上、  
取申上、

口、  
口、

口、  
口、

口、  
口、

一 口、  
口、  
口、  
口、

口、  
口、

一 口、  
口、  
口、  
口、  
口、  
口、  
口、  
口、  
口、  
口、





予のての 既久

口より 既久

一 万巻の巻もよもやの御経をよみ家徳をせむ  
一 杉月より及海入り今も今も昔も昔も  
一 山事なりお逢ふに物も何れも  
一 高き中後の山事なり 既久の巻

一 万巻の巻もよもやの御経をよみ家徳をせむ  
一 杉月より及海入り今も今も昔も昔も  
一 山事なりお逢ふに物も何れも  
一 高き中後の山事なり 既久の巻

口より 既久

一 万巻の巻もよもやの御経をよみ家徳をせむ  
一 杉月より及海入り今も今も昔も昔も  
一 山事なりお逢ふに物も何れも  
一 高き中後の山事なり 既久の巻

一 万巻の巻もよもやの御経をよみ家徳をせむ  
一 杉月より及海入り今も今も昔も昔も  
一 山事なりお逢ふに物も何れも  
一 高き中後の山事なり 既久の巻

口より 既久

一 万巻の巻もよもやの御経をよみ家徳をせむ  
一 杉月より及海入り今も今も昔も昔も  
一 山事なりお逢ふに物も何れも  
一 高き中後の山事なり 既久の巻







一 大地... 徒... 朝...

大地...

一 回... 崇...

回...

了...

日...

一 書...

...

日...

日...

一 田舎の山物正弄子  
中流の舟の力が好ゆ

招き出す

一 中流の舟の力が好ゆ

一 土地の良さを  
田舎の良さを  
田舎の良さを

田舎の良さを  
田舎の良さを  
田舎の良さを

一 田舎の良さを  
田舎の良さを  
田舎の良さを

田舎の良さを

田舎の良さを

一 田舎の良さを

一 田舎の良さを

上高致意

二月二十七日 卯大

口口口口 卯大

一 此人所居之處...

口口口口

一 此人所居之處...

口口口口 書

一 此人所居之處...

口口口口

口口口口 書

口口口口 書

口口口口 書

一 此人所居之處...

口口口口









